

議 事

(1) 岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2018 年度実績）について

○評価方法、基本施策別の評価結果・・・・・・・・P 1

○基本施策別評価シート・・・・・・・・P 3

- ・基本施策Ⅰ ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進・・・・・・・・P 3
- ・基本施策Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築・・P19
- ・基本施策Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現・・・・・・・・P25
- ・基本施策Ⅳ スポーツ環境の整備・・・・・・・・P32

岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2018 年度実績）について

岡山県スポーツ推進計画に基づいて実施する施策が、施策目標に対してどれほど達成できているか判断するため、5段階で評価したものです。

【岡山県スポーツ推進計画】

計画期間は、平成 25（2013）から令和 4（2022）年度までの 10 年間ですが、中間年度に見直しを行いました。

平成 30（2018）年度から、改訂後の計画に基づいて施策を実施しています。

1 評価方法

（1）評価指標

5 点	目標を大きく上回り、著しく高い成果が現れている
4 点	目標を上回っており、具体的成果が現れている
3 点	概ね目標を達成しており、具体的成果が現れている
2 点	目標に達しておらず、関連する所管事業の改善が必要である
1 点	目標を大きく下回り、関連する所管事業の根本的な見直しが必要である

（2）総合評価

関係各課の評価の平均値を出し、小数点第 1 位まで数値化した。

2 基本施策別の評価結果

別添のとおり

基本施策Ⅰ ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進

項 目	総合評価
1 幼児期からの運動・スポーツ活動の基盤づくりの推進	2. 7
2 青少年期の運動・スポーツ活動の推進	3. 0
3 成年期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進	3. 2
4 学校における体育・スポーツ活動の充実	
(1) 体育授業の充実・改善	3. 0
(2) 子どもの体力向上への取組	2. 0
(3) 運動部活動の改善・充実	3. 0
(4) 学校体育関係団体の活動支援	3. 0
5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進	
(1) 障害者スポーツへの理解と参加機会の確保	3. 0
(2) 障害者スポーツの指導者やボランティア養成及び資質の向上	3. 0
6 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進	3. 0

基本施策Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

項 目	総合評価
1 アスリートの育成・強化	3. 0
2 次世代アスリートの発掘・育成	3. 0
3 持続可能な一貫指導・支援システムの構築	3. 0
4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築	3. 0
5 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上	3. 0

基本施策Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現

項 目	総合評価
1 スポーツ参加人口の拡大	3. 3
2 スポーツを通じた地域活性化	3. 7
3 東京オリンピック・パラリンピック等の開催を契機とした地域活性化	3. 3
4 トップクラブチームを核とした地域活性化	3. 0

基本施策Ⅳ スポーツ環境の整備

項 目	総合評価
1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場	3. 5
2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進	3. 0
3 情報発信と表彰制度	3. 0

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	1 幼児期からの運動・スポーツ活動の基盤づくりの推進	担当課室	保健福祉子ども未来課 教育庁保健体育課 環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・ 幼児の運動遊び、リズム遊び等を行うおかやま地域子育て支援拠点の認知度向上の取組や情報発信を行った。 ・ おかやま地域子育て支援拠点の従事者を対象とした研修を実施し、従事者の育成、質の向上を図った。 ・ 保育士等のほか、スポーツ推進委員やスポーツ少年団指導者等幼児期の子どもに関わる者を対象に、「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」研修会を実施した。 ・ 幼稚園教諭に対し、運動遊びの内容や指導方法についての研修を実施する予定であったが、豪雨災害の影響で実施することができなかった。
課題	・ 従事者の更なる質の向上を図る必要がある。 ・ 幼稚園教育要領に対応した内容を含める等の研修内容の充実を図り、研修を踏まえた現場での実践状況を確認していく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	子ども未来課	事業内容	・看板やのぼり、県HP等で、おかやま地域子育て支援拠点を紹介する。 ・おかやま地域子育て支援拠点の従事者を対象とした研修を開催する。			
		成果・課題	評価	2018年度	3	
				2019年度		
				2020年度		
				2021年度		
				2022年度		
【成果】 ・研修修了者：100名(H30年度)						
【課題】 ・今後とも、おかやま地域子育て支援拠点をPRするとともに、研修等の実施により従事者の質の向上を図っていく必要がある。						
2	保健体育課	事業内容	・幼稚園教諭に対し運動遊びの内容や指導方法についての研修実施			
		成果・課題	評価	2018年度	2	
				2019年度		
				2020年度		
				2021年度		
				2022年度		
【成果】 ・幼稚園教諭を対象に、幼稚園・こども園運動遊び指導者講習会(7月20日)において、「用具を使った遊び」(リズム遊び(H29)、集団遊び(H28)、用具を使った遊び(H27)、リズム遊び(H26))を中心とした内容の講習を行う予定であったが、豪雨災害の影響で講習会を開催することができなかった。						
【課題】 ・幼稚園教育要領に対応した内容を含める等の研修内容の充実を図り、研修を踏まえた現場での実践状況を確認していく必要がある。 ・運動の習慣化、体力の向上を図る取組である「みんなでチャレンジランキング」への参加幼稚園数が伸び悩んでおり、幼稚園、こども園、保育園への周知が課題である。(参加園数 H27:15園、H28:13園、H29:12園、H30:11園)						

3	スポーツ振興課	事業内容	保育者やスポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者等幼児期の子どもに関わる者を対象とした研修会(アクティブ・チャイルド・プログラム研修会)に専門指導者を派遣し、市町村等の取組を支援する。			
		成果・課題	【成果】 ・玉野市・総社市主催の研修会(参加者67人)に専門指導者を派遣。幼稚園教諭、保育士等のほか、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、スポーツ推進員などの資質向上に取り組むことができた。 【課題】 ・参加者が増加傾向にあるため、開催時期や時間帯の工夫や開催PRの強化が必要である。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	2.7				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進(幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進)		
施策名	2 青少年期の運動・スポーツ活動の推進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・「県民応援デー」では、青少年をターゲットとした企画を実施し、スポーツに取り組むきっかけづくりに努めた。 ・トップクラブチーム等に所属する選手・指導者を学校等に派遣する「トップアスリート派遣事業」等を実施。青少年がアスリートと接する機会の提供、指導者の資質向上につながった。 ・岡山県体育協会を通じ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の活動を支援した。
課題	・スポーツにあまり関心のない青少年にどのようにコンタクトしていくか、方法等を工夫する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・トップクラブチームのホームゲーム1試合において「県民応援デー」を開催し、青少年がスポーツに取り組むきっかけづくりを推進する。 ・トップクラブチーム等に所属する選手・指導者を学校やスポーツ少年団等へ派遣する。 ・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等の活動を支援し、スポーツの裾野拡大や、指導者等の資質向上に取り組む。			
		成果・課題	【成果】 ・「県民応援デー」では、小学生から高校生まで青少年をターゲットとした企画を実施。青少年がスポーツに取り組むきっかけづくりに努めた。 ・トップクラブチーム等に所属する選手・指導者を学校等に派遣する「トップアスリート派遣事業」等を実施。青少年がアスリートと接する機会の提供、指導者の資質向上につながった。 ・岡山県体育協会を通じ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等を対象とし研修会等を実施し、活動の充実を支援した。 【課題】 ・スポーツにあまり関心のない青少年にどのようにコンタクトしていくか、方法等を工夫する必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	3 成年期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局 保健福祉部健康推進課 保健福祉部長寿社会課 教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	成人男女の1週間に1日以上運動・スポーツをする割合	計画策定時	49%（2010年度）				
			中間見直し時	49.1%（2016年度）				
	指標の説明	・文部科学省実施「体力・運動能力調査」による。 ・「岡山県晴れの国おかやま生き生きプラン」の目標値（生き生き指標）であり、同プランの見直しがあった場合は、本計画の目標値も見直す。	目標値	52.0%（2020年度）				
			実績値	2018年度 10月以降 公表予定	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度

数値目標	指標名	成人の1日の歩数	計画策定時	(1) 20～64歳：男性7,960歩、女性6,818歩 (2) 65歳以上：男性5,749歩、女性4,964歩 (いずれも2011年度)				
			中間見直し時	(1) 20～64歳：男性8,068歩、女性6,520歩 (2) 65歳以上：男性5,502歩、女性4,859歩 (いずれも2016年度)				
	指標の説明	・「岡山県第2次健康おかやま21」との整合を図っている（計画策定時に対し、男性はプラス約1000歩、女性はプラス約1500歩）。 ・基礎データのための調査（県民健康調査）は5年に一度の実施。	目標値	(1) 20～64歳：男性9,000歩、女性8,500歩 (2) 65歳以上：男性7,000歩、女性6,000歩 (いずれも2022年度)				
			実績値	(2022年度実績を記入)				

(2) 成果及び課題

成果	・平成30年11月11日に開催した「おかやまマラソン2018」には、男女とも幅広い年代の方からの応募があり、申込者は過去最多の32,611人となった。 ・ニュースポーツや運動の実践方法等の啓発、ねんりんピックへの選手の派遣等により、働き盛り世代のスポーツ実施率の向上や高齢者の運動・スポーツの普及を図るとともに、県民の健康保持増進に取り組んだ。 ・健康運動指導士などを各地域に派遣し、スポーツを通じた健康づくりに取り組むとともに、スポーツの体験教室やクラブ・サークル情報、県内スポーツイベント情報を提供するホームページ「おかやまスポーツナビ」を展開した。 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っており、多くの県民に有効活用されている。
課題	・おかやまマラソンについては、引き続き多くの方に参加していただけるよう更なる改善を重ね、大会の満足度向上を目指す。 ・ニュースポーツなどの軽運動をさらに普及させるため、よりわかりやすい情報提供を検討する必要がある。 ・気軽に運動・スポーツに取り組める環境整備や簡単に行える健康・体力づくりを一層推進するため、内容や情報提供に工夫する。 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、活用されていない施設の現状を分析し、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に周知する。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・市町村等が実施する運動教室等にレクリエーション指導者や健康運動指導士をはじめとした専門的指導者を派遣。スポーツを通じた健康づくり・体力づくりを支援し、レクリエーションスポーツを実施するとともに、健康相談や栄養指導等を併せて実施し、事業の普及を図る。			
		成果・課題	【成果】 ・新見市・久米南町主催の運動教室にレクリエーション指導者や健康運動指導士等を派遣し、スポーツによる健康・体力づくりに取り組んだ。(参加者数計191人) ・スポーツ教室やサークル情報、スポーツイベント情報を提供するインターネットサイト「おかやまスポーツナビ」について、利便性がより高まるように改修した。 【課題】 ・市町村のニーズ等を踏まえて、派遣者等を調整する必要がある。 ・「おかやまスポーツナビ」を活用してもらえるよう、タイムリーな情報収集・掲載等に努める必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	
2	スポーツ振興課(おかやまマラソン事務局)	事業内容	・おかやまマラソンについて、大会の開催を通じて、県民の健康と体力の増進、地域の活力向上や一体感の醸成を図るとともに、本県の情報発信や、地域経済の活性化など地域振興にも繋げる。また、スタンプラリーなどの取組を通じて、県内他大会と連携し、県内全体のマラソン大会の盛り上げを図る。			
		成果・課題	【成果】 ・おかやまマラソン2018では、「走る」「みる」「支える」人々が一体となり、地域に元気と感動をもたらす大会となった。また、おかやまマラソンを契機に、県内他大会でも参加者が増加傾向にあるなど、県内全体でマラソンブームが拡大している。 【課題】 ・引き続き多くの方に参加していただけるよう更なる改善を重ね、大会の満足度向上を目指す。	評価	2018年度	4
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	
3	健康推進課	事業内容	・おかやま健康づくりアワードで運動習慣の定着を含めた健康づくりを推進する企業や団体の表彰を行う。 ・「地域・職域保健連携推進協議会」において、関係機関・団体と働き盛り世代の運動定着について協議する。 ・県民の身体活動の促進や運動習慣の定着に向けた普及・啓発を行う。 ・高齢者向けに、フレイル予防のパンフレットを作成し、運動を含めた健康づくりの普及を図る。			
		成果・課題	【成果】 ・おかやま健康づくりアワードの実施により、働き盛り世代に運動習慣の定着を含めた健康づくりを推進する企業が増加している。 ・高齢者向けに作成したフレイル予防のパンフレットを、健康づくりボランティアが地域で活用し、身体活動の促進や運動習慣の定着について、普及啓発を図ることができた。 【課題】 ・壮年期、高齢期それぞれの世代にあった運動の種類や習慣の定着に向けた方法をさらに普及啓発していく必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4	長寿社会課	事業内容	・全国健康福祉祭(ねんりんピック)への選手団の派遣 ・地域活動参加のための情報提供及び相談対応 ・ニュースポーツの普及及び用具の貸出等				
		成果・課題	【成果】 ・全国健康福祉祭(ねんりんピック)へ県選手団を派遣し、高齢者の健康の保持・増進、社会参加、生きがいの高揚等を図ることができた。 ・ニュースポーツの普及及び用具の貸出をすることで、高齢者の健康と生きがいづくり、地域参加への一助となった。 【課題】 ・全国健康福祉祭(ねんりんピック)への選手団の派遣に当たり、岡山県社会福祉協議会等と連携し、参加団体や実行委員会(事務局)等との調整を図るとともに、全国健康福祉祭(ねんりんピック)やニュースポーツ等の普及啓発を図り、地域参加を促進していく必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		

5	保健体育課	事業内容	・地域におけるスポーツ活動の拠点として学校開放事業を推進する。				
		成果・課題	【成果】 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っており、多くの県民に有効活用されている。 H27年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館89%(82%)、武道場59%(40%) H28年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館90%(82%)、武道場59%(40%) ※()は全国平均 ※H28学校体育施設設置等状況調査 【課題】 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、活用されていない施設の現状を分析し、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に周知する。	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.2				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (1) 体育授業の充実・改善	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・体育実技講習会では、実技講習だけではなく、授業を行う際に留意する事項や工夫・アイデアなどの提示も行っており、参加者からは、得られた情報を生かしてすぐに実践したいなどの意見が寄せられた。 体育実技講習会参加者延べ人数 105人(138人) ※（ ）はH29年度 ・武道の研修講座について、実技講習、授業場面で使えるアイデアなどの内容で行い、参加者からは授業実践に役立つ情報が得られた等の意見が寄せられた。
課題	・体育実技講習会について、新学習指導要領に対応した内容を含めるなどさらに充実する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	保健体育課	事業内容	・授業実践例をホームページや指導資料等で紹介 ・実技講習会の開催			
		成果・課題	【成果】 ・体育実技講習会では、実技講習だけではなく、授業を行う際に留意する事項や工夫・アイデアなどの提示も行っており、参加者からは、得られた情報を生かしてすぐに実践したいなどの意見が寄せられた。 体育実技講習会参加者延べ人数 105人(138人) ※（ ）はH29年度 ・武道の研修講座について、実技講習、授業場面で使えるアイデアなどの内容で行い、参加者からは授業実践に役立つ情報が得られた等の意見が寄せられた。 【課題】 ・体育実技講習会について、新学習指導要領に対応した内容を含めるなどさらに充実する必要がある。 ・公立中学校武道授業におけるケガの発生件数は、ここ数年減少傾向であったが、昨年度は前年より4件増加した。 ケガの発生数 H28:48 → H29:35 → H30:39 ※日本スポーツ振興センターへ医療費を請求した件数	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進(幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進)		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (2)子どもの体力向上への取組	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

推進計画における数値目標		計画策定時		設定なし					
数値目標	指標名	新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合	中間見直し時	小5男子：27.7%、小5女子：23.3% 中2男子：24.2%、中2女子：11.2% (いずれも2016年度)					
	指標の説明	・スポーツ庁実施「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」による。 ・新体力テストにおいて実施する実技種目の記録を1～10点に得点化して総和し、その得点に応じて、A～E段階の5段階で評価したもの。	目標値	小5男子：25.0%、小5女子：21.0% 中2男子：21.8%、中2女子：10.0% (いずれも2022年度)					
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
				小5男子	29.0%				
				小5女子	24.2%				
		中2男子		26.7%					
		中2女子	11.8%						

数 値 目 標	指標名	1 週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合	計画策定時	小5男子：10.6%、小5女子：24.7% 中2男子：10.0%、中2女子：36.4% (いずれも2010年度)					
			中間見直し時	小5男子：5.7%、小5女子：10.5% 中2男子：7.1%、中2女子：20.7% (いずれも2016年度)					
	指標の説明	・スポーツ庁実施「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」による。	目標値	小5男子：5.0%、小5女子：8.5% 中2男子：5.0%、中2女子：18.2% (いずれも2022年度)					
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
				小5男子	7.1%				
				小5女子	12.5%				
中2男子	6.3%								
中2女子	20.6%								

(2) 成果及び課題

成果	・新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合は、平成30年度は中学校男子を除き、割合が増加した。 総合評価D及びEの割合 小男29.0% (28.7%)、小女24.2% (23.7%) 中男26.7% (27.2%)、中女11.8% (11.4%) ※ ()はH29年度 ・平成29年度まで「1週間の総運動時間数が60分未満」と回答した割合は、全国及び本県ともに減少傾向にあったが、平成30年度は、全国では小中男女の全てで増加した。本県では中学校男子を除いて増加に転じた。 60分未満割合 小男7.1% (5.3%)、小女12.5% (9.7%) 中男6.3% (6.4%)、中女20.6% (18.7%) ※ ()はH29年度 ・運動の習慣化、体力の向上を図る取組である、「みんなでチャレンジランキング」で、参加数は昨年度より減少したものの、本年度も多くの参加があった。 参加校数：233(262) 参加チーム数：2,848(3,091) 参加延べ人数：35,700(42,534) ※()はH29年度
課題	・新体力テストにおける総合評価D及びEの児童生徒の割合は、中学校男子は全国平均より良い状態にあるが、小学校の男女と中学校女子は全国平均より高く、昨年度からも割合が増加している。児童生徒へ体を動かす楽しさや心地よさを実感させるとともに、体力を高める必要性等をどのように認識させるかが課題である。 ・1週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合は、中学校男子は全国平均より良い状態で、昨年度からも減少している。小学校の男女は全国平均より良い状態にあるものの、昨年度より増加している。中学校女子は、全国平均より高く、さらに昨年度よりも増加しており、運動の習慣化ができていない児童生徒への対策が必要である。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	保健体育課	事業内容	・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果についての分析、課題把握とその改善を図るための指導資料等作成、配付 ・各学校の体力向上の取組支援 ・「みんなでチャレンジランキング」への参加呼びかけ ・実践的な研修会の開催 ・文科省・スポーツ庁全国調査の結果、研修会で紹介された資料や実践を県教育庁保健体育課のホームページに掲載			
			成果・課題	評価	2018年度	2
		2019年度				
		2020年度				
		2021年度				
2022年度						

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
2.0					

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進(幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進)		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (3)運動部活動の改善・充実	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	- 運動部活動の在り方について関係団体等から意見を伺いながら検討を行い、9月には「岡山県運動部活動の在り方に関する方針」を策定した。さらに県方針を受け、短時間に、合理的でかつ効率的、効果的な科学的トレーニングの導入や生徒の主体的な取り組みを促す指導法等について研修を行った。 - 運動部活動に係る事故発生件数は前年度に比較して減少した。 県内中・高校生の運動部活動中の災害発生（日本スポーツ振興センターへの申請）件数 4,937件（5166件）※（ ）はH29年度 - 体罰の根絶、セクハラ・パワハラをはじめとする不適切な指導の防止及び安全管理などの研修を行った。さらに運動部活動指導資料を作成し全校配付し、更なる周知徹底を行った。
課題	- 国のガイドライン、県の方針を踏まえた、持続可能な運動部活動の在り方を研究し、適切な運動部活動の運営を示していく必要がある。 - 体罰や不適切な指導の根絶と、医・科学的なトレーニングに基づく適切な部活動が実施されるよう、徹底する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	保健体育課	事業内容	・運動部活動の在り方に関する検討 ・体罰や不適切な指導等の根絶や、医・科学的なトレーニングに基づく指導法及び安全管理などの研修会の実施 ・学校体育大会の共催、後援と全国・ブロック大会に参加する生徒の支援 ・部活動指導員の派遣			
			成果・課題	評価	2018年度	3
		2019年度				
		2020年度				
		2021年度				
		2022年度				
		【成果】 ・国のガイドラインを踏まえて、運動部活動の在り方について関係団体等から意見を伺いながら検討を行い、9月には「岡山県運動部活動の在り方に関する方針」を策定した。短時間に、合理的でかつ効率的、効果的な科学的トレーニングの導入や生徒の主体的な取り組みを促す指導法等について研修を行った。 ・運動部活動に係る事故発生件数は前年度に比較して減少した。 県内中・高校生の運動部活動中の災害発生（日本スポーツ振興センターへの申請）件数 4,937件（5166件） ※（ ）はH29年度 ・体罰の根絶、セクハラ・パワハラをはじめとする不適切な指導の防止及び安全管理などの研修を行った。さらに隔年で作成している運動部活動指導資料を全校配付することで、更なる周知徹底を図った。 【課題】 ・国のガイドライン、県の方針を踏まえた、持続可能な運動部活動の在り方を研究し、適切な運動部活動の運営を示していく必要がある。 ・体罰や不適切な指導の根絶と、医・科学的なトレーニングに基づく適切な部活動が実施されるよう、徹底する必要がある。				

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	4 学校における体育・スポーツ活動の充実 (4)学校体育関係団体の活動支援	担当課室	教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	該当なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・全国中学校体育大会では、本県で陸上競技、水泳競技、剣道を開催し、中体連や関係団体等と連携を図りながら円滑な大会運営ができた。 ・各体連や学体連等が主催する研修会等で、新学習指導要領に対応した体育、保健の授業についての指導助言を行った。
課題	・学習指導要領に示されている「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を育成するためには、体育・保健体育の授業のみならず、休み時間、放課後の過ごし方や運動部活動等も重要なことから、各体連とさらに連携を深め、望ましい生活習慣及び運動習慣の確立を図っていく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	保健体育課	事業内容	・小、中、高体連への指導助言 ・小、中、高体連が開催する各種スポーツ大会等の支援			
		成果・課題	【成果】 ・全国中学校体育大会では、本県で陸上競技、水泳競技、剣道を開催し、中体連や関係団体等と連携を図りながら円滑な大会運営ができた。 ・各体連や学体連等が主催する研修会等で、新学習指導要領に対応した体育、保健の授業についての指導助言を行った。 【課題】 ・学習指導要領に示されている「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を育成するためには、体育・保健体育の授業以外にも、休み時間、放課後の過ごし方や運動部活動等も重要なことから、各体連とさらに連携を深め、望ましい生活習慣及び運動習慣の確立を図っていく必要がある。	評 価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進 (1)障害者スポーツへの理解と参加機会の確保	担当課室	保健福祉部障害福祉課 環境文化部スポーツ振興課 土木部都市計画課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	障害者スポーツ・レクリエーション教室 参加者数	計画策定時	年間821人（2011年度）				
			中間見直し時	年間1,105人（2016年度）				
	指標の説明	「岡山県障害福祉計画」に準じる。	目標値	年間1,200人（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				680人				

(2) 成果及び課題

成果	・「第18回岡山県障害者スポーツ大会」を開催。計14競技を実施し、個人競技1,460人、団体競技79人、公開競技46人、延べ1,585人の参加があった。 ・障害者スポーツ教室を19競技55回開催し、680名の参加があった。このうち、県北においても5競技5回行った。 ・岡山県障害者スポーツ協会では、機関誌を年2回発行。視覚障害者のためにカセットテープ版、デジ版も作成し希望者に配布した。 ・施設管理者や総合型地域スポーツクラブに対して、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の趣旨を周知した。 ・施設の長寿命化等を目的とする個別施設計画を策定。計画中に、障害のある人も含め、利用者の利便性向上につながる内容を盛り込んだ。 ・総合グラウンド陸上競技場のトイレの洋式化工事に向けて具体的な設計を行った。
課題	・障害のある人の障害の種類や程度、興味などに応じたスポーツに気軽に楽しめる機会や競技力の向上を図る場の提供に努める必要がある。 ・施設管理者と連携しながら、個別施設計画を着実に実行していく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	障害福祉課	事業内容	・「岡山県障害者スポーツ大会」の開催 ・「岡山県障害者スポーツ教室」の開催 ・ホームページによる情報提供及び機関誌「岡山県障害者スポーツ協会だより」の発行(岡山県障害者スポーツ協会)			
		成果・課題	評価	2018年度	3	
				2019年度		
				2020年度		
				2021年度		
				2022年度		

2	スポーツ振興課	事業内容	・障害のある人も使いやすい環境づくり				
		成果・課題	【成果】 ・施設管理者や総合型地域スポーツクラブに対して、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の趣旨を周知した。 ・施設の長寿命化等を目的とする個別施設計画を策定（2018年度までに4施設について策定済）。計画中に、障害のある人も含め、利用者の利便性向上につながる内容を盛り込んだ。 【課題】 ・施設管理者と連携しながら、個別施設計画を着実に実行していく必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		
3	都市計画課	事業内容	・施設のユニバーサルデザインによる障害のある人が使いやすい環境づくり				
		成果・課題	【成果】 ・障害のある人だけでなく子どもから高齢者まで、そして観客・競技者・運営者などあらゆる立場の人が不便を感じることなく利用できるよう、施設にはきめ細かくユニバーサルデザインを採用している。 （車椅子対応観客席、車椅子対応スロープ、車椅子対応型エレベーター、車椅子使用者駐車場、多目的トイレ、音声案内エレベーター、点字ブロック等） ・総合グラウンド陸上競技場のトイレの洋式化工事に向けて具体的な設計を行った。	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	5 障害のある人の運動・スポーツ活動の推進 (2) 障害者スポーツの指導者やボランティア養成及び資質の向上	担当課室	保健福祉部障害福祉課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	「障がい者スポーツ指導員」養成人数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	年間23人（2012～2016年度の平均）				
	指標の説明	・「岡山県障害福祉計画」に準じる。 ・（公財）日本障がい者スポーツ協会の公認指導者である「障がい者スポーツ指導員」を指す。	目標値	年間30人（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				16人				

(2) 成果及び課題

成果	・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会を延べ4日間開催し、受講を修了した16人が日本障がい者スポーツ協会に指導員（初級）の登録申請を行った。 - また、日本障がい者スポーツ協会等が実施する2つの指導者養成講習会に延べ4人を派遣し、指導者の指導技術の向上を図った。 ・ボランティア活動について、「第18回岡山県障害者スポーツ大会」では、学生ボランティア467人、係員ボランティア182人の参加があった。
課題	・養成された指導員の再登録及び活用の促進

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価					
1	障害福祉課	事業内容	・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会の開催 ・障害者スポーツ指導者養成講習会等への派遣 ・「岡山県障害者スポーツ大会」の開催				
		成果・課題	【成果】 ・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会を延べ4日間開催し、受講を修了した16人が日本障がい者スポーツ協会に指導員（初級）の登録申請を行った。 また、日本障がい者スポーツ協会等が実施する2つの指導者養成講習会に延べ4人を派遣し、指導者の指導技術の向上を図った。 ・ボランティア活動について、「第18回岡山県障害者スポーツ大会」では、学生ボランティア467人、係員ボランティア182人の参加があった。 【課題】 ・養成された指導員の再登録及び活用の促進	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	I ライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進		
施策の方向性	生涯スポーツの推進（幼児期から高齢期までライフステージに応じた運動・スポーツ活動の推進）		
施策名	6 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	P D C Aサイクルにより運営の改善等を図る総合型地域スポーツクラブの数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	11クラブ（2016年度）				
			目標値	30クラブ（2022年度）				
	指標の説明	スポーツ庁実施「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」による	実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			14クラブ					

(2) 成果及び課題

成果	・市町村に、総合型地域スポーツクラブの設立を働きかけるとともに、総合型クラブ等を活用した事業等の情報提供を行った。 ・地域スポーツ推進研修会を開催し、総合型クラブの指導者やスポーツ推進委員、行政職員等の情報共有・交流を促進し、連携の強化を図った。 ・岡山県スポーツ推進委員協議会が主催する研修会等において、事例発表やニュースポーツなどの実技等を学ぶ機会を設け、指導員の資質向上を図った。 ・県体育協会を通じて、総合型クラブに対し、学校部活動との連携を働きかけた。 ・総合型地域スポーツクラブ岡山協議会と岡山県スポーツ推進委員協議会による連携の場を設けた。 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っており、多くの県民に有効活用されている。
課題	・自治体によっては、既存の組織で住民のスポーツ活動を推進しているところがあり、総合型クラブに対する住民ニーズが低いところもある。 ・広域スポーツセンターについては、国の動向を踏まえながら、引き続き、その位置づけを検討する必要がある。 ・スポーツ推進委員との連携強化も必要である。 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、活用されていない施設の現状を分析し、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に周知する。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・市町村等に総合型地域スポーツクラブの設立を働きかけるとともに、県体育協会と連携して、総合型クラブの実情を把握するなど、総合型クラブの設立・育成を図る。 ・スポーツボランティア研修会等を開催し、総合型クラブの指導者やスポーツ推進委員等の情報共有・交流を促進する。 ・総合型クラブの活性化を促進するため、岡山県体育協会に委託し、広域スポーツセンター業務を担うスタッフを設置する。 ・岡山県スポーツ推進委員協議会が主催する研修会等において、スポーツ推進委員などの具体的な事例発表や実技等を学ぶことで、指導員の資質向上に繋げる。 ・岡山県体育協会と連携して、総合型クラブと学校部活動の連携が推進されるよう情報提供の在り方等について検討していく。			
			【成果】 ・市町村に、総合型地域スポーツクラブの設立を働きかけるとともに、総合型クラブ等を活用した事業等の情報提供を行った。 ・地域スポーツ推進研修会を開催し、総合型クラブの指導者やスポーツ推進委員、行政職員等の情報共有・交流を促進し、連携の強化を図った。 ・岡山県スポーツ推進委員協議会が主催する研修会等において、事例発表やニュースポーツなどの実技等を学ぶ機会を設け、指導員の資質向上を図った。 ・県体育協会を通じて、総合型クラブに対し、学校部活動との連携を働きかけた。 ・総合型地域スポーツクラブ岡山協議会と岡山県スポーツ推進委員協議会による連携の場を設けた。 【課題】 ・自治体によっては、既存の組織で住民のスポーツ活動を推進しているところがあり、総合型クラブに対する住民ニーズが低いところもある。 ・広域スポーツセンターについては、国の動向を踏まえながら、引き続き、その位置づけを検討する必要がある。 ・スポーツ推進委員との連携強化も必要である。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

2	保健体育課 (再掲)	事業内容	・地域におけるスポーツ活動の拠点として学校開放事業を推進する。			
		成果・課題	【成果】 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っており、多くの県民に有効活用されている。 H27年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館89%(82%)、武道場59%(40%) H28年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館90%(82%)、武道場59%(40%) ※()は全国平均 ※H28学校体育施設設置等状況調査 【課題】 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、活用されていない施設の現状を分析し、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に周知する。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進(チーム岡山競技力の向上)		
施策名	1 アスリートの育成・強化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	国民体育大会における天皇杯順位	計画策定時	13位(2012年)				
			中間見直し時	16位(2017年)				
	指標の説明	本県人口規模からは高い目標だが、2005年岡山国体以降の成績も勘案して設定している。	目標値	10位台(2022年)				
			実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				11位				

数値目標	指標名	全国高等学校総合体育大会の入賞者数	計画策定時	58(2012年度)				
			中間見直し時	84(2016年度)				
	指標の説明	2016年度に岡山県を中心に開催された高校総体を含めた過去5年間の入賞者の平均(61.2)を勘案して設定している。	目標値	60台(2022年度)				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				48				

(2) 成果及び課題

成果	・国体へは608名の選手団を派遣し、天皇杯順位11位の成果を残すことができた。各競技団体ともに、効果的な練習を行っており、ソフトボール、クレ射撃、バドミントン、サッカー、体操、ソフトテニス、馬術など11競技で競技別天皇杯入賞を果たした。 ・強化遠征・合同練習会・トップコーチ招聘を行うことにより、選手の競技力の向上だけでなく、指導者のレベルアップも図られた。また、選手発掘が課題となっている競技団体においては、小中学生を対象とした競技体験会を開催している。 ・全国高校総体の8位入賞数は、前年度の実績に届かなかったものの、生徒の計画的・継続的な活動により48の入賞数を獲得した。 ・オリンピック育成事業の中で、指定選手のコンディショニングやサプリメントに関する補助など、医・科学サポートを進めている。
課題	・国体では、競技得点の大きい団体種目の強化、2017年度から取り入れられた6競技(オープンウォーター男女、ボクシング女子、レスリング女子、ウエイトリフティング女子、自転車女子、ラグビー女子)への対応が課題である。特に当該6競技については、入賞はボクシング女子の2位、ウエイトリフティング女子の6位のみであった。全国的に見ても選手層が薄く、選手育成環境も整っていないのが現状であり、普及から強化まで新たな対策を講じていく必要がある。 ・選手強化について、国が示すガイドラインの内容を遵守しつつ、効果的、効率的な選手強化の方策を研究し、関係団体と連携しながら、実践していく必要がある。 ・運動部活動に関する国のガイドラインや県方針の内容を遵守した、合理的かつ効果的な活動等を研究し、関係団体と連携しながら、実践していく必要がある。 ・個別対応事例などを整理しながら、県と県体協医・科学委員会で一体となった医・科学サポート体制が確立できるよう研究を重ねていきたい。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価						
1	スポーツ振興課	事業内容	・恒常的に全国上位の競技力を維持するために、ジュニア年代からの一貫指導体制の中で、系統的・継続的強化に取り組む必要があり、各競技の年代ごとの県内トップレベルの選手を系統的に育成し、成年までつなげる競技力の向上を図る。 ・昨年度から競技体験会を実施し、選手発掘の機会を提供するとともに、各競技団体から選抜された中学生に対し、各学年の競技レベルや発育・発達段階に応じた最適なプログラムを提供する。 ・オリンピック育成事業等、個別の事業を通じてコンディショニング指導や医・科学サポートに関する支援を進める。			評価	2018年度	4
							2019年度	
							2020年度	
							2021年度	
							2022年度	
		成果・課題	【成果】 ・各競技団体ともに、効果的な練習ができているが、競技者の確保が困難な競技も増えつつあり、指導者の世代交代とともに、将来に向けた対策を講じていかなければならない。また、小学生や中学生の活動も定着し、小中あるいは中高が連携した取組も増えてきている。 ・システムの構築については進展がないが、個別の事業を通じてコンディショニング指導や医・科学サポートに関する支援を進めている。 【課題】 ・事業が定着して効果的に進めることができていないが、効果の検証は単年では困難なことから、継続的なデータの蓄積が不可欠である。 ・個別対応事例などを整理しながら、県と県体協医・科学委員会で一体となった医・科学サポート体制が確立できるよう研究を重ねていきたい。					

2	保健体育課	事業内容	・全国高校総体に向けて、中体連・高体連と連携した競技力の向上			
		成果・課題	【成果】 ・全国高校総体の8位入賞数は、前年度の実績に届かなかったものの、計画的・継続的な活動により、48の入賞数を獲得した。 全国高校総体8位入賞数 48(56) ※()は、H29年度 【課題】 ・競技力の向上について、運動部活動に関する国のガイドラインや県方針の内容を遵守した、合理的でかつ効果的、効率的な活動等を研究し、関係団体と連携しながら、実践していく必要がある。	評価	2018年度	2
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進（チーム岡山競技力の向上）		
施策名	2 次世代アスリートの発掘・育成	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・第73回国体における入賞数は、少年男子28、少年女子9であった。中でも、スケート（フィギュア少年男子）が優勝したほか、ボート・レスリング・馬術等の全11種目において3位以内の成績を収めた。 ・チャレンジ ザ トップ事業やランクアップ支援事業において国内トップ水準のチーム、指導者を招聘し県内競技レベルの向上を図ることができた。
課題	・国体における入賞数は減少傾向にある。 ・強化体制が継続的に維持できているところがある反面、競技の普及や競技者の確保に窮しているものもあり、このことに対する対策が急務である。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価						
1	スポーツ振興課	事業内容	・チャレンジ ザトップ事業 中学生年代における国内トップ水準のチーム、指導者を招聘し、合同練習や試合を行っている。 ・ランクアップ支援事業 県外の強豪大学、実業団と高校県選抜との練習試合等を実施している。 ・指導者サポート事業を通して県内指導者の資質向上を図り、継続的な強化につなげる。			評価	2018年度	3
							2019年度	
		成果・課題	【成果】 チャレンジ ザトップでは空手道(浪速中学校)、バドミントン(富岡第一中学校)を招聘。いずれも日本一であり、選手のモチベーション向上や、指導者のスキルアップに繋がった。 ランクアップはバスケットボール、ハンドボール、水球で実施。技術指導等を通して最新の戦術等を体感することができた。 【課題】 ・いずれの事業も定着して、効果的に進めることができていないが、短期間で成果・効果を上げることは困難なことから、継続的な実施が不可欠である。				2020年度	
							2021年度	
							2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進（チーム岡山競技力の向上）		
施策名	3 持続可能な一貫指導・支援システムの構築	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・中央競技団体の合宿や海外の現場研修へ、8競技15名の強化指定指導者を派遣し（オリンピック育成事業）、選手育成環境の整備に努めた。（オリンピック強化指定選手25名のうち日本代表6名 日本代表候補2名 U代表6名 国際大会出場14名） ・大学4年生で4名のUターン就職者を確保し、成果を上げることができた。 ・キャリア教育に特化した個別事業はないが、各種強化事業の中で取り組んでいる。
課題	・平成17年の岡山国体から13年が経過し、指導者の世代交代期を迎えている競技団体も多い。各競技団体で次の時代を担う指導者の育成が急務であるとともに、その研修内容についても検討が必要である。 ・アスリートUターン促進事業では、協力企業の開拓や、より効果的なアスリートの就職支援に繋がるよう、採用後の支援等についても研究していきたい。 ・各強化事業の中で、競技団体と連携しながら着実に取り組んでいく必要がある。 ・本県スポーツ振興の担い手を育成するため、関係機関等とも連携しながら、引き続き研究する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・将来、オリンピックをはじめ、国際大会で活躍する選手の育成が期待される県内トップレベルの指導者に対し、高度な指導方法と知識を得る機会を提供する。 ・次世代を担う若手の指導者が、指導力及び資質向上のために研修する機会を提供する。 ・ジュニア期から岡山で育成され、県外で活躍している心身ともに優れたアスリートのUターン就職を促進することで、継続的に優秀な人材を確保し、競技スポーツの推進はもとより、スポーツを通じた地域貢献に資する。 ・将来、オリンピックをはじめ、国際大会で活躍する選手の育成が期待される県内トップレベルのに対し、高度な指導方法と知識を得る機会を提供する。 ・キャリア教育に特化した個別事業はないが、各種強化事業の中で取り組んでいる。			
			成果・課題	評価	2018年度	3
		2019年度				
		2020年度				
		2021年度				
		2022年度				

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進(チーム岡山競技力の向上)		
施策名	4 障害者アスリートの育成と支援体制の構築	担当課室	保健福祉部障害福祉課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	・「第18回岡山県障害者スポーツ大会」は、個人競技6競技、団体競技5競技(中止2競技)、公開競技3競技(うち中止1競技)、計14競技を県内各地で実施。個人競技1,460人、団体競技79人、公開競技46人、延べ1,585人の参加があった。 ・全国大会へは、個人競技6競技25人、団体競技3競技25人の選手の派遣を行い、個人競技で34個のメダルを獲得した。 ・障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典である大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、障害のある人の社会参加の促進に寄与できた。 ・岡山県障害者スポーツ指導員(初級)養成講習会を延べ4日間開催し、受講を修了した16人が日本障がい者スポーツ協会に指導員(初級)の登録申請を行った。また、日本障がい者スポーツ協会等が実施する2つの指導者養成講習会に延べ4人を派遣し、指導者の指導技術の向上を図った。 ・平成30年度から、パラリンピック等への出場を目指す障害者アスリートを対象に、トレーニング施設利用や国内外の練習拠点への移動、国際大会参加等に要する費用の一部を補助する「パラリンピアン育成事業」を実施し、当年度は4名を強化指定選手として選定した。また、強化指定選手の指導者1名についても講習会参加に要する費用等を補助した。
課題	・障害の特性に応じた専門的な知識を備えた指導者に指導を受けることのできる環境づくり ・養成された指導員の再登録及び活用の促進

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	障害福祉課	事業内容	・「岡山県障害者スポーツ大会」の開催 ・「全国障害者スポーツ大会」及び団体競技地区大会への選手団の派遣 ・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会の開催及び障害者スポーツ指導者養成講習会等への派遣			
		成果・課題	【成果】 ・「第18回岡山県障害者スポーツ大会」は、個人競技6競技、団体競技5競技(中止2競技)、公開競技3競技(うち中止1競技)、計14競技を県内各地で実施。個人競技1,460人、団体競技79人、公開競技46人、延べ1,585人の参加があった。 ・全国大会へは、個人競技6競技25人、団体競技3競技25人の選手の派遣を行い、個人競技で34個のメダルを獲得した。 ・障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典である大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、障害のある人の社会参加の促進に寄与できた。 ・岡山県障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会を延べ4日間開催し、受講を修了した16人が日本障がい者スポーツ協会に指導員（初級）の登録申請を行った。また、日本障がい者スポーツ協会等が実施する2つの指導者養成講習会に延べ4人を派遣し、指導者の指導技術の向上を図った。 ・平成30年度から、パラリンピック等への出場を目指す障害者アスリートを対象に、トレーニング施設利用や国内外の練習拠点への移動、国際大会参加等に要する費用の一部を補助する「パラリンピアン育成事業」を実施し、当年度は4名を強化指定選手として選定した。また、強化指定選手の指導者1名についても講習会参加に要する費用等を補助した。 【課題】 ・障害の特性に応じた専門的な知識を備えた指導者に指導を受けることのできる環境づくり ・養成された指導員の再登録及び活用の促進			
		評価	2018年度	3		
			2019年度			
			2020年度			
			2021年度			
2022年度						

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅱ アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築		
施策の方向性	競技スポーツの推進(チーム岡山競技力の向上)		
施策名	5 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	スポーツの価値向上にあたっては、指導者の資質を高め、ハラスメント等の問題を皆無にすることが必要なことから、国の定める「モデル・コア・カリキュラム」に準じた研修会を展開した。このことで、コーチングに関わる理念、哲学、キャリアデザイン等、新たな視点での研鑽を積むことができた。
課題	指導者の世代交代期を迎えている競技団体も多く、特に若い世代の指導力向上が課題である。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・指導者サポート事業 国体正式41競技団体の核となる指導者を対象に、コーチングの理念・哲学やキャリアデザイン等をテーマに研修会を行う。			
		成果・課題	【成果】 6回(24時間)の講習会を開催。約20人の指導者に対して、人材育成・コーチングコンサルティングの専門家による講習会を実施した。従来の技術・戦術指導とは全く違った視点からの内容であり、大変有意義なプログラムとなっている。 【課題】 事業開始年であり、また、直ちに成果が出るものではないことから、検証を続けていく。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	1 スポーツ参加人口の拡大	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局 保健福祉部健康推進課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	「普段の生活の中で芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	30.6% (2017年度)				
			目標値	38.0% (2020年度)				
指標の説明	指標の説明	・岡山県実施「県民意識調査」による ・「新晴れの国生き活きプラン」の目標値(生き活き指標)であり、同プランの見直しがあつた場合は、本計画の目標値も見直す。	実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				28.0%				

(2) 成果及び課題

成果	・各クラブのファン・サポーターの拡大やスポーツに取り組む意欲向上のきっかけとなる「県民応援デー」を実施し、応援気運の醸成やスポーツへの関心を高めた。 ・県体育協会と連携し、「第3回スポーツフェスティバル」を開催した。 ・おかやまマラソン2018では、全国各地から参加した16,300人のランナー、大会を支えた5,000人を超えるボランティア、16万4千人もの応援者など、「走る」「みる」「支える」人々が一体となり、大きな盛り上がりとなった。 ・おかやま健康づくりアワードの実施により、働き盛り世代に運動習慣の定着を含めた健康づくりを推進する企業が増加した。 ・高齢者向けに作成したフレイル予防のパンフレットを、健康づくりボランティアが地域で活用し、身体活動の促進や運動習慣の定着について、普及啓発を図ることができた。
課題	・イベント等について、より積極的なPR方法や魅力的な企画内容を検討する必要がある。 ・引き続き多くの方に参加していただけるよう更なる改善を重ね、大会の満足度向上を目指す。 ・壮年期、高齢期それぞれの世代にあった運動の種類や習慣の定着に向けた方法をさらに普及啓発していく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・トップクラブチームのホームゲームにおけるイベント「県民応援デー」の実施や、トップレベルの大会誘致等を進め、多くの県民がスポーツに関心を持てるようなきっかけづくりに取り組む。 ・県体育協会と連携し、スポーツの楽しさや喜びを体験できるイベント「スポーツフェスティバル」の開催に取り組む。 ・ホームページ「おかやまスポーツナビ」等を通じ、県内のスポーツイベントや運営ボランティアなど、様々な情報を発信する。			
		成果・課題	【成果】 ・前座試合やSNSフォトコンテストの実施、フォトスポットの設置など、各クラブのファン・サポーターの拡大やスポーツに取り組む意欲向上のきっかけとなる「県民応援デー」を実施し、応援気運の醸成やスポーツへの関心を高めた。 ・県体育協会と連携し、「第3回スポーツフェスティバル」を開催。スポーツの楽しさ等を啓発した。 ・ホームページ「おかやまスポーツナビ」等を通じ、県内のスポーツイベントや運営ボランティアなど、様々な情報を発信した。 【課題】 ・イベント等について、より積極的なPR方法や魅力的な企画内容を検討していく必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

2	スポーツ振興課 (おかやまマラソン事務局)	事業内容	・おかやまマラソンについて、大会の開催を通じて、県民の健康と体力の増進、地域の活力向上や一体感の醸成を図るとともに、本県の情報発信や、地域経済の活性化など地域振興にも繋げる。また、スタンプラリーなどの取組を通じて、県内他大会と連携し、県内全体のマラソン大会の盛り上げを図る。			
		成果・課題	【成果】 ・おかやまマラソン2018では、全国各地から参加した16,300人のランナー、大会を支えた5,000人を超えるボランティア、16万4千人もの応援者など、「走る」「みる」「支える」人々が一体となり、大きな盛り上がりとなった。 【課題】 ・引き続き多くの方に参加していただけるよう更なる改善を重ね、大会の満足度向上を目指す。	評価	2018年度	4
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

3	健康推進課 (再掲)	事業内容	・おかやま健康づくりアワードで運動習慣の定着を含めた健康づくりを推進する企業や団体の表彰を行う。 ・「地域・職域保健連携推進協議会」において、関係機関・団体と働き盛り世代の運動定着について協議する。 ・県民の身体活動の促進や運動習慣の定着に向けた普及・啓発を行う。 ・高齢者向けに、フレイル予防のパンフレットを作成し、運動を含めた健康づくりの普及を図る。			
		成果・課題	【成果】 ・おかやま健康づくりアワードの実施により、働き盛り世代に運動習慣の定着を含めた健康づくりを推進する企業が増加している。 ・高齢者向けに作成したフレイル予防のパンフレットを、健康づくりボランティアが地域で活用し、身体活動の促進や運動習慣の定着について、普及啓発を図ることができた。 【課題】 ・壮年期、高齢期それぞれの世代にあった運動の種類や習慣の定着に向けた方法をさらに普及啓発していく必要がある。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.3				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	2 スポーツを通じた地域活性化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局 土木部都市局都市計画課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	地域スポーツコミッションの数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	2 団体（2017年度）				
			目標値	6 団体（2022年度）				
	指標の説明	年間1団体程度の増加を目指す。	実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
			4 団体					

(2) 成果及び課題

成果	・おかやまマラソンについては、前回大会での運営面の改善を図りながら、更なるランナーサービスの向上にも取り組むなど、開催準備等を進めるとともに、大会開催に向けた広報や、機運醸成イベント等を実施した。また、並行して2019大会の準備を進めた。 ・事前キャンプの誘致に向け、関係市と連携し、スポーツコミッションの活動を支援するとともに、創設に向けた働きかけを行った結果、新たに2団体が追加となった。 ・地域資源を生かした環境スポーツイベントである「SEA TO SUMMIT」が鏡野町で開催され、岡山の情報発信につながった。 ・マスカットスタジアムにおいて、プロ野球公式戦2試合、プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦1試合、オープン戦3試合が開催された。また、楽天の秋季キャンプが実施された。
課題	・様々なスポーツイベントへの誘客促進を図るとともに、イベントをどのように地域活性化につなげていくか、方法等を検討し、取り組む必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえ、事前キャンプの誘致活動を積極的に行うため、県内関係団体や各地域での取組状況を把握しながら、「スポーツコミッション」の設立の支援を行う。 ・地域資源を生かした環境スポーツイベントであるSEA TO SUMMITを鏡野町において開催し、スポーツ活動への参加機会を提供することでスポーツ活動人口の増加を図るとともに、地域の魅力を発信することでイベントへの参加をきっかけとしたスポーツツーリストのリピーター化を促進し、地域活性化を図る。			
		成果・課題	【成果】 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致に向け、関係市と連携し、スポーツコミッションの設立支援や活動支援を行った。 ・地域資源を生かした環境スポーツイベントであるSEA TO SUMMITを鏡野町において開催し、地域の魅力を発信することで地域の活性化を図った。 【課題】 ・スポーツコミッションについては、オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、地域の参加や活性化を図る取組を行う必要がある。 ・SEA TO SUMMITについては、さらなる地域の活性化を図るため、地元が主体となって継続的に開催していく必要がある。	評価	2018年度	4
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

2	スポーツ振興課 (マラソン事務局)	事業内容	・岡山市をはじめ関係団体との連携のもとで、中四国最大規模の都市型マラソン大会を開催し、大会の開催を通じて、県民の健康と体力の増進、地域の活力向上や一体感の醸成を図るとともに、本県の情報発信や、地域経済の活性化など地域振興にも繋げる。 ・前回大会での運営面の改善を図りながら、更なるランナーサービスの向上にも取り組むなど、開催準備等を進めるとともに、大会開催に向けた広報や、機運醸成イベント等を実施する。また、並行して2019大会の準備を進める。				
		成果・課題	【成果】 ・おかやまマラソン2018では、全国各地から参加した16,300人のランナー、大会を支えた5,000人を超えるボランティア、16万4千人もの応援者など、「走る」「みる」「支える」人々が一体となり、大きな盛り上がりとなった。 ・また、経済効果については、2017大会を上回る15.8億円であったと推計した。 【課題】 ・引き続き多くの方に参加していただけるよう更なる改善を重ね、大会の満足度向上を目指すとともに、岡山らしいおもてなしに一層工夫を凝らし、全国に向けた情報発信や県外からの誘客促進を行う。	評価	2018年度	4	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		
3	都市計画課	事業内容	・マスカットスタジアムにプロ野球を誘致するため、「岡山にプロ野球を誘致する会」を中心に誘致活動を行う。 ・プロ野球開催時に球場周辺の賑わいづくりを実施する。				
		成果・課題	【成果】 ・プロ野球公式戦2試合、プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦1試合、オープン戦3試合が開催され、また楽天の秋季キャンプが実施された。 ・プロ野球開催時に、ご当地グルメの販売や観光PRなどを行い、球場周辺の賑わいづくりを行った。	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.7				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	3 東京オリンピック・パラリンピック等の開催を契機とした地域活性化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 保健福祉部障害福祉課 環境文化部文化振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	ナショナルチームキャンプ等誘致件数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	5 件（2016年度）				
	指標の説明	「新晴れの国おかやま生き生きプラン」の「生き生き指標」の考え方（2017～2020年度で20件）の考え方に準じ、年間平均5件としている。	目標値	25 件（2018～2022年度の計）				
			実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				13件				

数値目標	指標名	東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	—				
	指標の説明	・「新晴れの国おかやま生き生きプラン」の目標値（生き生き指標）であり、同プランの見直しがあった場合は、本計画の目標値も見直す。	目標値	2,000件（2017～2020年度の計）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				618件				

(2) 成果及び課題

成果	・スポーツ合宿の誘致については、柔道のスペインナショナルチームやウエイトリフティングのニュージーランドナショナルチーム、ソフトボール日本女子代表チームなど計13件の誘致を実現。東京オリンピックの事前キャンプも、ブルガリア共和国（バドミントン）、スペイン（陸上競技）など4件が決定している。 ・パラリンピックのキャンプ誘致については、パラ・パワーリフティング男子日本代表の強化合宿を誘致し、県内選手との合同練習や地元との交流事業等を行った。 ・聖火リレーについては、県実行委員会を設立し、県内ルート案を取りまとめるなど準備を進めた。また、東京大会の気運醸成のため、オリンピック・パラリンピック旗が県内を巡回するフラッグツアーを実施した。 ・「おかやま文化芸術アソシエイツ」を設置し、各文化団体等の支援を行ったほか、地域資源を活用したアーティストによる滞在・交流事業では1万4千人が来場するなど、文化の力を活用して地域の魅力を発信し、活性化を図った。
課題	・スポーツ合宿の誘致については、地元市町村や県競技団体と緊密に連携しながら、これまでの実績等を踏まえ、具体的な国・競技の絞り込みを行い、東京オリンピック等の事前キャンプ誘致に結び付けていく必要がある。 ・聖火リレーの実施については、警備や聖火ランナーの選定など、今後、各市町村をはじめとする関係各者と連携しながら準備を進めていく必要がある。 ・「おかやま文化芸術アソシエイツ」の機能を強化し、文化プログラムへの参画促進を図るとともに、市町村・地域と連携・協働をさらに進め、文化を通じた本県の魅力発信、地域活性化につなげる必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・スポーツ合宿の誘致については、H28年度に創設したナショナルチーム等のキャンプやトップレベルの大会誘致のための補助制度等を活用し、市町村や県競技団体等と連携を図りながら、駐日大使館や中央の協議団体等への働きかけを強化するなど積極的に誘致活動を行い、一つでも多くのキャンプ誘致の実現をめざす。			
		成果・課題	【成果】	評価	2018年度	4
			・スポーツ合宿の誘致については、柔道スペインナショナルチームやウエイトリフティングニュージーランドナショナルチーム、ソフトボール日本女子代表チームなど合計13件の誘致を実現しており、東京オリンピックの事前キャンプについても、ブルガリア共和国バドミントン、スペイン陸上競技など4件が決定するなど、着実に成果が上がっている。		2019年度	
			・聖火リレーについては、県実行委員会を設立し、県内ルート案を取りまとめるなど実施に向けて準備を進めている。また、関連イベントとしてオリンピック・パラリンピック旗が県内を巡回するフラッグツアーを実施した。		2020年度	
			【課題】		2021年度	
			・地元市町村や県競技団体と緊密に連携しながら、これまでの実績等を踏まえ、具体的な国・競技の絞り込みを行い、東京大会の事前キャンプ誘致に結び付けていく必要がある。		2022年度	
			・聖火リレーの実施については、警備や聖火ランナーの選定など、今後各市町村をはじめとする関係各者と連携しながら準備を進めていく必要がある。			

2	障害福祉課	事業内容	2020東京パラリンピック競技大会に係るナショナルチーム又は国代表選手が行うキャンプの誘致を促進し、東京パラリンピック開催の効果を本県に波及させ障害者スポーツの振興と障害への理解の一層の促進を図る。				
		成果・課題	【成果】 ・パラ・パワーリフティング男子日本代表選手の強化合宿を誘致(平成30年11月15日から同月18日まで)し、県内選手も参加して岡山商科大学ウエイトトレーニング場で練習したほか、地元との交流事業として岡山大学教育学部附属小学校及び県立誕生寺支援学校(弓削校地)において生徒を対象に講演及び競技体験を実施した。 【課題】 ・地元市町村や県競技団体と緊密に連携しながら、これまでの実績等を踏まえ、具体的な国・競技の絞り込みを行い、東京大会の事前キャンプ誘致に結び付けていく必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		
3	文化振興課	事業内容	・東京オリンピック・パラリンピックに向け、「おかやま文化芸術アソシエイツ」を設置し、県内の文化団体等を支援等するとともに、市町村、文化関係団体等と連携を図りながら、地域資源を活用した様々な文化イベントを展開し、文化芸術活動の一層の活性化と国内外からの誘客により、地域の活力を醸成する。				
		成果・課題	【成果】 ・アソシエイツが主催する「文化芸術交流実験室」への定員を超える参加や、各文化団体等からの年間100件近くの相談など、県内の多彩な文化芸術団体等を支援する(まとめ・つなぎ・伸ばす)役割を果たした。 ・国内外のアーティストが地域資源を活用した短期滞在制作を行い交流するイベントには、約1万4千人が来場し、地域の活性化や誘客促進に効果があった。 【課題】 ・双方向情報発信型メーリングリストの設置・運営など、さらにアソシエイツの機能強化を図り、文化プログラムへの参画促進につなげていく必要がある。 ・県内各地で開催するイベントについて、市町村や住民等との連携・協働をさらに進め、地域全体の盛り上がりにより一層つながるよう努める必要がある。	評価	2018年度	3	
					2019年度		
					2020年度		
					2021年度		
					2022年度		

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.3				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅲ スポーツを通じた活力があり絆の強い地域社会の実現		
施策の方向性	スポーツ参加人口の拡大と地域の活性化		
施策名	4 トップクラブチームを核とした地域活性化	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	トップクラブチームのホームゲームにおける観客動員数	計画策定時	166千人（2011年度シーズン）				
			中間見直し時	248千人（2016年度シーズン）				
	指標の説明	ファジアーノ岡山、岡山シーガルズ、岡山湯郷ベル、吉備国際大学シャトル岡山高梁のホームゲームにおける観客動員数	目標値	273千人（2022年度シーズン）				
			実績値	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				211千人				

(2) 成果及び課題

成果	・ファン・サポーターの拡大やスポーツに取り組む意欲向上のきっかけとなる「県民応援デー」を実施し、応援気運の醸成やスポーツへの関心を高めた。 ・ファジアーノ岡山と中四国J2チームとの対戦カード（「PRIDE OF 中四国」）において、本県の情報発信やアウェイサポーターに向けた岡山への誘客促進PR等を実施した。 ・小中学校や市町村のイベントにトップクラブチームの選手を含めトップアスリートを派遣し、参加者に技術指導を行うなど、「するスポーツ」のきっかけづくりにつなげた。
課題	・「県民応援デー」等について、より積極的なPR方法や魅力的な企画内容を検討する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	・トップクラブチームのホームゲームにおいて、イベント「県民応援デー」を実施し、ファン・サポーターの拡大やスポーツに関心を持つきっかけづくりに取り組み、全県における気運醸成を図る。 ・ファジアーノ岡山と中四国のJ2所属チームとの試合（「PRIDE OF 中四国」）において、関係自治体が連携し、情報発信を行うとともに、アウェイサポーターの誘客の促進など県域を越えた交流や地域の活性化を図る。 ・トップクラブチームの選手が学校やスポーツ少年団等に出向き、技術指導や交流を実施するトップアスリート派遣事業を実施し、「するスポーツ」のきっかけづくりを促進する。			
			成果・課題	評価	2018年度	3
		2019年度				
		2020年度				
		2021年度				
		2022年度				

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	IV スポーツ環境の整備		
施策の方向性	スポーツの基盤となる「人」「場」の環境整備		
施策名	1 指導者・ボランティアなど多様な人材の育成、活躍の場	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 おかやまマラソン事務局

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	設定なし	計画策定時	
			中間見直し時	
	指標の説明		目標値	
			実績値	

(2) 成果及び課題

成果	- 岡山県スポーツ推進委員協議会と研修会等を共催し、具体的な事例発表やニュースポーツなど実技等を学ぶ機会を提供し、指導員の資質向上につなげることができた。 - おかやまマラソンにおいて、県民にスポーツボランティアへの関心を持ってもらうため、大会運営を支えるボランティアを個人はもとより、企業、地域団体、学校等から広く募集するとともに、ボランティア研修会等を通じてボランティアリーダーの養成を行った。
課題	スポーツリーダーの新規登録者数の増加を促進するとともに、既登録者について、既存事業と連動を図りながら活動の場の提供につなげていく必要がある。 おかやまマラソンのみならず、より幅広くスポーツボランティアについて周知するため、より効果的なPR手法を検討する必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価				
1	スポーツ振興課	事業内容	- 岡山県スポーツ推進委員協議会と共催する研修会等において、具体的な事例発表や実技等を学ぶ機会を提供し、指導員の資質向上に繋げる。 - スポーツやレクリエーション活動の指導者について、「ばるネット岡山」(岡山県生涯学習情報提供システム)への登録を促進し、指導者等の情報を提供する。 - 総合型地域スポーツクラブを支援する広域スポーツセンターの活動充実を図る。	評価	2018年度	3
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	
2	スポーツ振興課 (マラソン事務局)	事業内容	おかやまマラソンにおいて、県民が一体となって「支える」大会となるよう、大会運営を支えるボランティアを個人はもとより、企業、地域団体、学校等から広く募集する。	評価	2018年度	4
					2019年度	
					2020年度	
					2021年度	
					2022年度	

4 総合評価

総合評価	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
	3.5				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	Ⅳ スポーツ環境の整備		
施策の方向性	スポーツの基盤となる「人」「場」の環境整備		
施策名	2 スポーツ施設の機能の充実と活用の促進	担当課室	環境文化部スポーツ振興課 土木部都市計画課 保健福祉部健康推進課 教育庁保健体育課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	県営スポーツ施設利用者数	計画策定時	1,575千人（2011年度）				
			中間見直し時	1,990千人（2016年度）				
	指標の説明	シティライトスタジアム、ジップアリーナ岡山、岡山武道館、津山総合体育館・津山東体育館、美作ラグビー・サッカー場、備前テニスセンター、津山陸上競技場、笠岡陸上競技場の利用者数。2016年度はインターハイがあったため、2015年度（1,754千人）を基準に、1割程度の増を目指す。	目標値	1,930千人（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				1,735千人				

数値目標	指標名	学校体育施設の開放率	計画策定時	屋外運動場83%、体育館89%、武道場58%（いずれも2010年度）				
			中間見直し時	屋外運動場78%、体育館89%、武道場59%（いずれも2015年度）				
	指標の説明	・全国平均を上回っており、中間見直し時においても計画策定時と同程度であることから、目標値は同じ率とする。	目標値	屋外運動場85%、体育館91%、武道場60%（いずれも2021年度）				
			実績値	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
			屋外運動場	9月以降確定				
			体育館	9月以降確定				
			武道場	9月以降確定				

(2) 成果及び課題

成果	・利用者の利便性の向上やスポーツ施設の活用の促進のため、指定管理者による自主企画事業の実施やホームページを活用した施設情報の提供を行っており、スポーツ施設の活用を促進した。 ・包括協定に基づく安全管理計画による施設管理を行い、事故防止や事故発生時の体制の整備に努めた。 ・スポーツ施設の管理者に対する講習会により、管理者の資質向上が図られた。 ・県有施設の改修や設備の更新を計画的に行っており、県内スポーツ施設の機能の充実を図っている。 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っており、県民に有効活用されている。 - H27年度開放状況：屋外運動場78%（75%）、体育館89%（82%）、武道場59%（40%） - H28年度開放状況：屋外運動場78%（75%）、体育館90%（82%）、武道場59%（40%） ※（ ）は全国平均
課題	・スポーツ施設について、さらなる利便性の向上に資するような情報提供の手法を検討する必要がある。 ・各施設の老朽化が進み、今後施設・設備の改修費用が嵩んでくることから、公共施設マネジメント方針に基づく個別施設計画を策定し、計画的な改修等により長寿命化を図っていく必要がある。 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、活用されていない施設の現状を分析し、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に周知する。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価						
1	スポーツ振興課	事業内容	・計画的に改修等を行い、施設の長寿命化等を図るための個別施設計画を策定するとともに、その実行に取り組む。 ・指定管理者と連携しながら、包括協定に基づく施設管理や、積極的な利用者サービスの向上に向けた取組を行い、安全で適切な施設管理に努める。 ・スポーツ施設等の情報提供等に取り組み、利用者の増加や活用促進を図る。 ・県内スポーツ施設の設置者や管理者を対象に、施設・設備の点検や管理体制等の適切で具体的な知識の啓発を行うため、スポーツ施設における事故防止を目的とした講習会を実施する。			評価	2018年度	3
							2019年度	
		成果・課題	【成果】 ・計画的に改修等を行い、施設の長寿命化等を図るための個別施設計画を策定した。(岡山武道館等3施設) ・津山陸上競技場の2種公認改修をはじめ、各施設の修繕等を行った。 ・指定管理者と連携し、利用サービスの向上など施設管理を行った。 ・ホームページを活用した施設情報の提供を行い、スポーツ施設の活用を促進した。 ・県内スポーツ施設の設置者や管理者を対象に講習会を開催し、管理者の資質向上を図った。 【課題】 ・施設管理者と連携しながら、施設の修繕や長寿命化等を計画的に実行する必要がある。 ・利用者サービスの向上を図り、利用者数の増加に取り組む必要がある。	2020年度				
				2021年度				
				2022年度				
				2	都市計画課		事業内容	・長寿命化計画に基づき、施設機能の維持充実のため必要な改修整備を実施する。 ・指定管理者は利用者のニーズにあった自主事業を実施する。 ・指定管理者は安全管理計画を策定し、これに基づき施設管理を実施する。 ・指定管理者は包括協定に基づき、アンケートを実施するなど利用者のニーズを把握し、ニーズにあった運営を実施する。
2019年度								
成果・課題	【成果】 ・陸上競技場のトラックの部分改修を行った。 ・自主事業としてスポーツ教室を実施するなど、施設の利用拡大を行った。 ・安全管理計画に基づき施設管理を行った。 ・指定管理者と連携をしながら、利用者からのアンケートを実施するなどサービス向上を行った。	2020年度						
		2021年度						
		2022年度						
		3	健康推進課			事業内容	岡山県南部健康づくりセンターの利用促進	
2019年度								
成果・課題	【成果】 ・岡山県南部健康づくりセンターについて、指定管理者と連携し、利用者の利便性の向上などに取り組んだ。 ・施設機能の維持充実のため、給水ポンプユニットの更新等必要な改修整備を行った。 【課題】 ・利用者の利便性向上のため、さらなる取り組みが必要である。 ・施設機能の維持充実のため、必要な改修整備に取り組む。			2020年度				
				2021年度				
				2022年度				
				4	保健体育課 (再掲)	事業内容	・地域におけるスポーツ活動の拠点として学校開放事業を推進するため、県教育庁保健体育課ホームページに掲載し、周知している。	
2018年度								
成果・課題	【成果】 ・公立学校の体育施設の開放率は国の平均を上回っており、県民に有効活用されている。 H27年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館89%(82%)、武道場59%(40%) H28年度開放状況 屋外運動場78%(75%)、体育館90%(82%)、武道場59%(40%) ※()は全国平均 【課題】 ・公立学校の体育施設の開放率は、全国平均を上回っているものの、活用されていない施設の現状を分析し、さらに多くの県民が活用できるように市町村教委や県立学校に周知する。	2019年度						
		2020年度						
		2021年度						

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				

岡山県スポーツ推進計画（改訂版） 2018年度施策評価シート

1 評価施策名

基本施策	IV スポーツ環境の整備		
施策の方向性	スポーツの基盤となる「人」「場」の環境整備		
施策名	3 情報発信と表彰制度	担当課室	環境文化部スポーツ振興課

2 課室施策評価

(1) 推進計画における数値目標

数値目標	指標名	スポーツ情報ウェブサイト「おかやまスポーツナビ」のアクセス数	計画策定時	設定なし				
			中間見直し時	21,689件（2016年度）				
	指標の説明	現状（2016年度）の倍増を目指す。	目標値	40,000件（2022年度）				
			実績値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				20,534				

(2) 成果及び課題

成果	- 多くの県民が気軽に運動やスポーツに参加できるよう、運動・スポーツの体験教室やクラブ・サークル情報、県内スポーツイベント情報を提供し、「場所探し・活動探し」をサポートするホームページ「おかやまスポーツナビ」を運営した。 2018年度も多くのアスリートが各種大会で活躍した。岡山県スポーツ特別顕賞は2人、岡山県トップアスリート賞は個人74・団体22、スポーツマスターズ賞は個人3、岡山県生涯スポーツ功労者表彰は個人4を表彰した。
課題	「おかやまスポーツナビ」をより活用していただけるよう、利用者にとって、わかりやすく使いやすいものにしていく必要がある。

3 各課における評価

番号	部課名	事務事業の実施内容、成果・課題及び総合評価						
1	スポーツ振興課	事業内容	・多くの県民が気軽に運動やスポーツに参加できるよう、その「場所探し・活動探し」をサポートし、ニーズとマッチングの助長を図り、スポーツ活動に取り組む人の増加につなげる。（ホームページ「おかやまスポーツナビ」の運営） ・国際大会や全国大会において、優秀な成績を収めた個人又は団体及び優秀な指導者を顕彰し、本県スポーツの振興に資する。（スポーツ特別顕賞、トップアスリート賞、スポーツマスターズ賞、生涯スポーツ功労者表彰）					
			成果・課題	【成果】 ・多くの県民が気軽に運動やスポーツに参加できるよう、運動・スポーツの体験教室やクラブ・サークル情報、県内スポーツイベント情報を提供し、「場所探し・活動探し」をサポートするホームページ「おかやまスポーツナビ」を運営した。 ・「おかやまスポーツナビ」や県ホームページへのスポーツ施設等の掲載を通じて、利用者の利便性の向上やスポーツ施設の活用の促進が図れた。 ・2018年度も多くのアスリートが各種大会で活躍した。岡山県スポーツ特別顕賞は2人、岡山県トップアスリート賞は個人74・団体22、スポーツマスターズ賞は個人3、岡山県生涯スポーツ功労者表彰は個人4を表彰した。 【課題】 ・「おかやまスポーツナビ」をより活用していただけるよう、利用者にとって、わかりやすく使いやすいものにしていく必要がある。	評価	2018年度	3	
		2019年度						
		2020年度						
		2021年度						
		2022年度						

4 総合評価

	2018年度	2020年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合評価	3.0				